

原著

2 歳児相談における事前問診の語彙チェックリスト作成の試み

- 文法カテゴリーによる分析：形容詞・形容動詞・副詞 -

間野 幸代¹⁾，笠井新一郎¹⁾，岩本 さき²⁾，苅田 知則¹⁾，長嶋比奈美¹⁾，
 稲田 勤¹⁾，塩見 将志³⁾，石川 裕治¹⁾，山田 弘幸⁴⁾

Production of a vocabulary checklist for inquiry prior to
 counseling for children aged 2 years

- A Structure and Increase of Adjectives, Adjective verbs and Adverbs -

Sachiyo Mano¹⁾，Shinichiro Kasai¹⁾，Saki Iwamoto²⁾，Tomonori Karita¹⁾，Hinami Nagashima¹⁾，
 Tsutomu Inada¹⁾，Masashi Shiomi³⁾，Yuji Ishikawa¹⁾，Hiroyuki Yamada⁴⁾

要 旨

香川県坂出市で行われている「2 歳児相談」において、言語発達障害を有する子ども等の早期発見・早期療育を行う手がかりの 1 つとして、語彙チェックリストを作成する目的で、2 歳児を対象に表出語彙に関するアンケート調査を実施した。本研究では文法カテゴリー別に分類し、修飾語である形容詞、形容動詞、副詞に関して整理および考察を試みた。2 歳 0 ヶ月児と 2 歳 6 ヶ月児の表出語彙数を比較した結果、語彙数は急速に増加していた。修飾語の内容に関して、Nelson(1973)の文法カテゴリーの分類をもとに整理した場合、形容詞における属性および状態に関する語彙に関しても 2 歳 6 ヶ月児で増加傾向を呈していた。さらに性質を示しかつ、対の意味を示す形容詞において、2 歳 6 ヶ月児では対義語(大きい - 小さいなど)をともに獲得しているのに比し、2 歳 0 ヶ月児では、一方の語しか獲得されていないことが確認された。したがって、形容詞・形容動詞・副詞等の修飾語の語彙チェックリストを作成する場合、(1)修飾語の種類や数を増やすこと、(2)形容詞に関しては、対義語の吟味が必要であることが示唆された。

キーワード：2 歳児，語彙チェックリスト，修飾語，対義語

1) 高知リハビリテーション学院 言語療法学科

Department of Speech, Language and Hearing Pathology, Kochi Rehabilitation Institute

2) 回生病院 リハビリテーション科 言語療法室

Department of Rehabilitation, Kaisei Hospital

3) もみのき病院 リハビリテーション科

Department of Rehabilitation, Mominoki Hospital

4) 九州保健福祉大学 保健科学部 言語聴覚療法学科

Language Hearing Treatment Subject of Study, Department of Health and Science, Kyushu University of Health and Welfare

Abstract

The purpose of this present study is to produce a vocabulary checklist for the early detection and therapy of children with speech development retardation in “counseling projects for 2-years-old children” in Sakaide, Kagawa Prefecture. Therefore, we carried out a questionnaire survey of the vocabulary in 2 years old. In this study, words were classified according to grammar categories, and adjectives, adjective verbs, and adverbs as modifiers were evaluated and discussed. Comparison of the number of the vocabulary between children aged 24 months and those aged 30 months showed a rapid increase with age. When the contents of modifiers were classified according to Nelson’s grammar categories (1973), the number of adjectives associated with “attributes” and “states” were also increased in 30 months. Concerning antonymous adjectives that mean properties, the children in 30 months had acquired both of the pair of antonyms (such as large - small) while those in 24 months had acquired only one of the antonyms. Therefore, when a vocabulary checklist of adjectives, adjective verbs, and adverbs is produced, (1) the variety of modifiers should be increased, and (2) antonyms in adjectives should be evaluated.

Key words: children aged 2 years, vocabulary checklist, modifier, antonym

1. はじめに

1) 問題の所在と先行研究

子どもの語彙増加は、発達の初期の段階で急増する。特に、1 歳児の頃は、1 語文の表出が大半であるが、次第に 2 語文へと増加する。小山¹⁾によれば、子どもは 1 歳 6 ヶ月ごろから急速に語彙を獲得し始めるボキャブラリー・スパートがみられるとの報告もある。また、Bates ら²⁾によると、8 ヶ月～2 歳 6 ヶ月までの約 1,800 人の子どもの母親に語彙チェックリストを用いて調査した結果「一般的な事物名称 (common object nouns)」が最も多いとされている。周知のことであるが、健常な 2 歳児は 200～300 語の語彙の使用が確認されている。

文法カテゴリーの視点から整理を行うと、小西³⁾は、生後 10 ヶ月から 2 歳までの子どもの言語発達に関する研究を行い、表出語彙をもとに語音および語の発達について事例を中心に整理している。語の発達においては、文法の品詞別分類により考察を加えており、形容詞等の修飾語の語彙表出は、1 歳 1 ヶ月から 1 歳 8 ヶ月とばらつきは見られるものの、1 歳児から出現することが確認されている。大久保⁴⁾は、ひとりの子どもを縦断的な研究で追跡し、子どもが発した語を品詞別に分類している。また、Brown⁵⁾

によると、模倣文によって保存される文は名詞・動詞・形容詞であるとの報告もある。上記の報告より、2 歳児では、それぞれの品詞において、最低一つでも表出される語が見られるという基準においては、品詞がすべて出そろった時期だと考えられている。

さらに、形容詞等の修飾語の内容に関する研究として、国立国語研究所⁶⁾は、3～5 歳の就学前児童を対象に性状語検査を行っている。これは、対となる語を絵カードから、一方の性状語 (形容詞) を被験児に応答させる方法を採用している。

2 歳児で語彙の獲得は急速に伸びるといった周知の事実はあるものの、2 歳児を対象にした研究が少ないことがあげられる。また、研究方法も事例を用いた縦断的研究が大半を占めている。さらに形容詞といった文法カテゴリーに着目すると、対象者が 3 歳児以上の子どもが中心となっている。

したがって、幼児期、特に 2 歳児における形容詞の語彙獲得に関して明らかにすることは必要であると考えられる。

2) 形容詞の役割

形容詞・形容動詞・副詞は、名詞や動詞を修飾する修飾語としての役割を果たしている。形容詞等

は、文法的な観点から捉えると、自立語として成り立っている。さらに形容詞等は、活用できる品詞として理解されており、終止形で用いられる場合と、語尾が変形し、他の品詞の語を結びつける役割も持っている。つまり、名詞や動詞に形容詞や形容動詞・副詞を付与していくことで語連鎖が生じ、2語文や3語文が生じてくる。構文における形容詞等の役割は、述語としての形容詞、連体修飾語、連用修飾語としての形容詞を挙げることができる。

Brown⁵⁾は、2語文に着目し、2語文における基本的な文法機能として、11の分類を示している。形容詞に関するものは、「再現」、「不在」、「存在物と属性」があてはまる。「再現」とは、人物・過程・ものについて論評したり、再現を要求したりする内容を示す。「不在」とは、現在の文脈のもとでは、ある対象や存在物が不在であることを表明する。「存在物と属性」とは、あるものが特別の属性を持つことを表す。

また、Nelson⁶⁾は、語彙の発達を量的のみではなく質的变化を概観するため、文法カテゴリーの分類を行っている。修飾語の定義を、「事物、あるいは出来事の属性あるいは質を表す語」とし、「属性、状態、場所、所有」の4分類を試みている。

いずれにしても、2歳児の語彙獲得における修飾語の量的および質的变化に関して、整理を行い考察を加えていく意義は十分にあると考えられる。

3) 調査の目的および方法

研究の目的としては、香川県坂出市において実施されている「2歳児相談」において、来所する子どもの言語発達を正確に評価し、言語発達障害を有する子ども等を早期発見・早期療育するための語彙チェックリストを作成することにある。そこで、本研究においては、この語彙チェックリストの項目を検討するとともに、2歳児の子どもの形容詞・形容動詞・副詞の発達を概観することを目的としている。

2. 調査の対象と手続き

香川県坂出市内にある全12保育所に所属する1歳11ヶ月から2歳11ヶ月の子どもの保護者161名を対

象に、作成した語彙チェックリストを各保育所に配布した。期間は2000年の3月初旬より実施した。保健センターという公共機関で回収したため、回収率は、100%である。

1) 調査項目

調査で用いたチェックリストの項目は、大久保⁴⁾が作成した2歳児の語彙リストおよび三省堂『こどもことば絵じてん』⁸⁾を参考に作成した。チェックリストに含まれる全語彙数は452個で、品詞としては、名詞・代名詞・抽象語・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・感動詞を導入した。本研究で取り扱う形容詞・形容動詞・副詞は、それぞれ37語・15語・18語の計70語である。対象とした保護者の答えやすさ、整理のしやすさを考慮し、予め設けた品詞名の下にある語句を選んでもらう方法を採用した。複数の意味をもつ語句に関しては、漢字を後方に記述した。

3. 結果

1) 分類の方法

分析に関しては、苅田ら⁹⁾と同様の方法を用いている。すなわち、語彙チェックリストによる問診という方法を考え、2歳0ヶ月+6ヶ月を正常値の幅として想定した。これは、苅田も述べる通り、本調査における調査協力者が各月齢で10名前後と少ないことや短時間の相談における問診という使用目的を考えると、ウエクスラー式知能検査(WPPSI、WISC- など)やイリノイ式言語学習能力診断検査(ITPA)など多くの知能検査で用いられる標準偏差や評価点など統計処理を用いた厳密な数値を推量することは本研究においては早計と判断したためである。したがって、津守式乳幼児発達検査や遠城寺式乳幼児発達検査などのスクリーニングを目的とした発達検査でも、各項目の合格基準を該当月齢児の60%以上が合格することとしていること¹⁰⁾・¹¹⁾から、スクリーニングの手段として用いる語彙チェックリストの項目を検討する指標として採用した。そこで、まず2歳0ヶ月児と2歳6ヶ月児を対象として、それぞれの段階で60%以上の子どもが表出して

いると回答された項目（以下，通過した形容詞・形容動詞・副詞）について表を作成した。また，先程も述べたように，本調査においては調査協力者の人数の関係から，あくまでも 60% 以上が通過したか否かを表記するにとどめた。

2) 2 歳 0 ヶ月児の表出語彙

2 歳 0 ヶ月の 60% 以上が通過する形容詞は，38 語中 10 語の「あかい・あつい・いい・いたい・おいしい・おおきい・くさい・こわい・さむい・ちいさい」である。形容動詞は，「いや・きれい・すき・だめ」の 5 語，副詞としては「いっしょ・いっぱい・こうやるの」の 3 語が含まれ，計 18 語である。2 歳 0 ヶ月児で 60% 以上の子どもが表出した語は 70 語中 18 語（25.7%）である（表 1 参照）。

2 歳 0 ヶ月児で通過した語の特徴としては，「あかい・あつい・おおきい・ちいさい・きれい・いっぱい」などの抽象概念に関する語と，「いい・おいしい・いたい・さむい・こわい・くさい・すき・きら

い・いや・だめ・いっしょ・いっぱい・こうやるの」など，要求を示す際に使われる語に分類することができる。

3) 2 歳 6 ヶ月児の表出語彙

2 歳 6 ヶ月児が通過した形容詞は 32 語（うち 2 歳 0 ヶ月児で表出した 10 語を含む），形容動詞 8 語（2 歳 0 ヶ月児の 5 語含む），副詞 9 語（2 歳 0 ヶ月児の 3 語含む）であり，計 49 語である（表 2 参照）。つまり，2 歳 6 ヶ月児で 60% 以上の子どもが通過した語は，全 70 語中 49 語（70%）である。2 歳 0 ヶ月児同様に，抽象概念をあらわす語（かわいい，たかい，つよい等）や要求を示す語（あぶない，ねむい，ほしい等）が増加している。さらに，「おおきい - ちいさい」「あつい - さむい」といった対の意味を示す語が増加している。

4) 修飾語の内容変化

形容詞・形容動詞・副詞が含まれる修飾語に関し

表 1 2 歳 0 ヶ月児で通過した修飾語

形容詞	あかい おおきい	あつい(熱い) くさい	いい こわい	いたい さむい	おいしい ちいさい
形容動詞	いや	きれい	すき	だめ	
副詞	いっしょ	いっぱい	こう(こうやるの)		

表 2 2 歳 6 ヶ月児で通過した修飾語

形容詞	あおい いい おいしい きたない すこし よい まるい	あかい いけない おおきい くさい すっぱい ない わるい	あつい いたい おもい こわい たかい ながい	あぶない うまい かゆい さむい ちいさい ねむい	あまい うれしい かわいい すごい つめたい ほしい
形容動詞	いや だいじょうぶ	おなじ だいすき	きれい だめ	じょうず	すき
副詞	いっしょ ちょっと	いっぱい はやく	すぐ まだ	ずっと もっと	こう(こうやるの)

表3 2歳0ヶ月と2歳6ヶ月で通過した修飾語の比較

	属性	状態	副詞
2歳0ヶ月	6	9	3
2歳6ヶ月	20	19	10

て、Nelson⁶⁾が行った分類をもとに、修飾語に含まれる内容の変化の整理を試みた。

Nelson⁶⁾の修飾語の分類によると、「属性・状態・場所・所有」の4種類があてはまる。そのうち、本研究の語彙チェックリストに含まれる語彙は、「あかい・おいしい・たかい・まるい」など属性を表す語と、「あつい・いたい・くさい・さむい」など状態を表す語の二つが考えられる。

場所と所有を表す語に関しては、本研究で用いた語彙チェックリストの中には含まれていないため、分析の対象から除外した。また、Nelsonの修飾語の分類からは、副詞はあてはまらないため、単体で検討を行うことにした。

これらのカテゴリーにしたがって、今回用いたチェックリストの語彙に関して数量化を行った。

表3を見ると、どのカテゴリーに関しても、2歳0ヶ月児に比し2歳6ヶ月児の方が大幅に通過した語が多いことを示している。

5) 2歳10～11ヶ月児における未表出語彙について

2歳10～11ヶ月の子どもで、60%以上が表出しなかったと回答した語彙を整理した。形容詞においては、「つまらない・いけない」の2語(5%)、形容動詞は、「だいきらい」の1語(6.7%)のみであった。副詞に関しては全語が通過されていた。

4. 考察

1) 2歳児における形容詞・形容動詞・副詞などの獲得した修飾語の特徴

2歳0ヶ月児で通過した語は全70語中、約25.7%であるが、2歳6ヶ月児では約70%が通過していた。子どもが「初期のことば」を話しはじめてから語彙を獲得していくには速度がゆっくりである。しか

し、1歳6ヶ月の子どもは、急速に語彙を増やして「語彙の爆発的増加(word explosion)」の時期に入り、就学前まで増加傾向を示す。このことを考慮すると、本研究の結果においても、修飾語に関して増加傾向が見られたことは、2歳0ヶ月から2歳6ヶ月の間で、着実に修飾語に関する語彙が獲得されているのではないかと考えられる。

さらに、2歳0ヶ月児で通過した形容詞の語句は、「あかい・あつい・おおきい・ちいさい」などごく簡単な抽象語や、「いたい・さむい・こわい・きらい・いや・こうやるの」など、子ども自身が要求を示す際に使われる語が中心である。一方、2歳6ヶ月児になると、「あおい・おいしい・たかい・まるい」などの属性を示す語や、「あぶない・うれしい・おもい・かゆい・すっぱい」など状態を表す語が増加している。

また、子どもの生活場面で用いられやすい修飾語が通過していることも配慮しなければならない点であるといえよう。2歳0ヶ月児で60%以上の子どもが表出していると回答された形容詞は、食事場面で用いられやすい語句である「あまい」や「おいしい」、排泄場面で用いられやすい語句である「つめたい」や「くさい」、睡眠に関連する語句である「ねむい」などである。食事・排泄・睡眠の生活場面は、子どもが1日の生活の中で数回にわたり体験する場面である。しかも、食事・排泄・睡眠といった行動は、家庭であれ、保育所であれ毎日繰り返し行う「生きていくために必要な行動」であるといえる。子どもは3歳前後で基本的な生活習慣が確立されていき、身辺処理能力を身につけていく。従って、保育所や家庭において、持続性や規則性のある活動であることと修飾語の増加になんらかの関係性があるのではないかと示唆される。

2) 対となる修飾語の獲得手続き

修飾語の中でも形容詞には、対義語が存在する。本研究で対の意味をなす形容詞は、「あつい(熱い)/つめたい」「いい/わるい」「おおきい/ちいさい」「きれい/きたない」「すき/きらい」であった。こ

の中で 2 歳 0 ヶ月児で通過した対義語は「おおきい / ちいさい」と「すき / きらい」であった。2 歳 6 ヶ月児になると、2 歳 0 ヶ月で通過した対義語以外に上述した対義語すべてが通過していた。

久慈¹²⁾によると形容詞でさらに空間的な量を表す対義語は、1 次元、2 次元、3 次元と分類することができる。しかも、はじめは大きさを示す「おおきい / ちいさい」から獲得される。さらに長さ等の意味を示す「ながい / みじかい」等へと分化し、塊り等の意味を表す「ひろい / せまい」等へと移行する。さらに「おおきい / ちいさい」は 3 歳以上の子どもがほぼ正答しており、本研究から 3 歳以前の子どもでも「おおきい / ちいさい」という対の概念が形成されつつあるのではないかと考えられる。

しかし、本研究ではその他の空間的な量を表す対義語を語彙チェックリストに含めていなかったため、2 次元以上の空間の理解と語彙獲得がなされているかどうかは検討の余地があるといえる。ただし、長さ等の意味を示す「ながい」「たかい」は、2 歳 6 ヶ月児で通過している語句であるが、「みじかい」や「ひくい」という語句は語句チェックリストには導入していなかった。さらに、久慈⁹⁾によると年少児では、「おおきい」の語で厚さや広さ、高さや深さを代替している割合が 50% 以上であるとしているのに対して、「ながい」「とおい」の代替率は 10% 以上であると報告している。したがって、対の意味をなす修飾語を語彙チェックリスト作成の際に採用する必要があると考えられる。なかでも、ある一定方向に伸びるような修飾語である「ながい - みじかい」「とおい - ちかい」「たかい - ひくい」の導入が必要ではないだろうか。ただ、対義語は空間的な量を表す形容詞だけではなく要求や状態を示す語もあり、本研究の結果で、対の意味を示す形容詞が多かった。従って、修飾語の語彙チェックリスト作成には対義語や類義語等を含める検討をしていかななくてはならないだろう。

文献

1) 小山 正：日常生活における子どもの人形を用

いた象徴遊びにみられる認知発達とボキャブラリー・スパートに関する研究，音声言語医学，40，193-208，1999。

- 2) Bates, E., Marchman, (傍)., Thal, D., Fenson, L., Dale, P., Reznick, J. S., Reilly, J. & J. Hartung : Developmental and stylistic variation in the composition of early vocabulary. *Journal of Child Language*, 21, 85-123, 1984.
- 3) 小西輝夫：幼児の言語発達，児童精神医学とその近接領域，1 (1)，62-70，1960。
- 4) 大久保 愛：幼児言語の研究 - 構文と語彙，あゆみ出版，1984。
- 5) Brown, R. : A first language, Harvard University Press, 1973.
- 6) 国立国語研究所：幼児の語彙能力，国立国語研究所，1979。
- 7) Nelson, K. : Structure and Strategy in Learning to talk. *Monographs of the society for research in child development. Journal of Child Language*, 18. 273-294, 1991.
- 8) 金田一春彦 (監修)・三省堂編修所 (編)：三省堂 こどもことば絵じてん，三省堂，1996。
- 9) 苅田知則，笠井新一郎，岩本さき，長嶋比奈美，稲田 勤，塩見将志，間野幸代，石川裕治，山田弘幸：2 歳児相談における事前問診の語彙チェックリスト作成の試み - 文法カテゴリーによる分析：名詞 - ，学校法人高知学園高知リハビリテーション学院紀要，第 2 巻，p33-39，2001。
- 10) 津守 真，稲毛教子：増補 乳幼児精神発達診断法 0 才～3 才まで，大日本図書株式会社，東京，1997。
- 11) 遠城寺宗徳，合屋長英，黒川 徹，名和顕子，南部由美子，篠原しのぶ，梁井 昇，梁井迪子：遠城寺式乳幼児分析的発達検査法，慶應義塾大学出版株式会社，東京，1977。
- 12) 久慈洋子：空間的な量を表わす形容詞の獲得について。F.C パン & 堀素子 (編) 言語習得の諸相，文化評論出版，1981。